

## 第2回 校内研修全体会

平成30年6月4日(月)  
場所：会義室15：30～

### 1 開 会

### 2 校長挨拶及び指示伝達

### 3 確 認

#### ○研究主題について

主 題 『主体的に課題解決に取り組む生徒の育成』

副主題 ～振り返る活動の充実を通して～

#### ○組織について

### 4 協 議

#### ○振り返る活動について

※次頁からの資料

#### ○研究授業について

##### ・日程

7月 2日(月) 9月10日(月) 10月15日(月) 11月12日(月)  
12月10日(月) 1月16日(水) 2月 4日(月)

##### ・指導案

「授業改善の視点」

1 単元名(題材名・主題名)

2 校内研修とのかかわり

3 本時の展開

\*できれば板書計画を

##### ・まとめ

### 5 その他

### 6 閉 会

# 振り返る活動

## ①「振り返り」の効果

主体的・対話的で深い学びの視点が重視される授業の中で、「振り返り」は次のような効果を得ることが期待できる。

- 知識・技能の習得率を上げる
- 理解や技能の定着を図る
- 学びの経験を再認識することで、学びの実感を得ることができる
- 自らの経験について考え直し、表現する活動によって、思考力・判断力・表現力が伸びる
- 振り返る能力が高まる
- 自分と学びに自信がもてる
- 振り返る能力が高まることで、自分の学習状況を調整する基礎が育つ
- 他者と協働で振り返る活動を通して、対話を通した振り返り能力が育つ

## ②「振り返り」のレベル

- レベル1「既知を見付ける」振り返り 【陳述／伝達／再生】
- レベル2「新知を見いだす」振り返り 【構築／再構成】
- レベル3「未知を発見する」振り返り 【創造】

レベル1は、再生的な振り返りである。今日の授業で結果として理解した内容を再確認する。「今日の授業で分かったことはなんでしょう？」という一般的な振り返りは、このレベルに相当する。レベル1の振り返りは授業の終盤だけでなく、導入時などに既習の確認として使われる場合も多い。その場合は、今日の授業が向かう方向性を生徒に示す機能も果たす振り返りとなる。

レベル2は、「今日の授業でどんな問題について考えたのかな？そして、みんなの気付いたことはどういうことだっただろう？」などの課題解決の過程を通して考えた内容や問題の本質的な意味を問い直す振り返りとなる。この振り返りは、学習の結果分かったことだけでなく、理解までの過程や、課題解決の過程などの思考過程について再構成を促すことで、より深く考えさせる振り返りである。

レベル3は、これまで考え付かなかったような問題や疑問に気が付いたり、別の解決方法を見いだしたりする創造的・発見的な振り返りである。「今日学んだことを生かしてどんなことができそうか」など、今日考えたことから次の疑問に気付かせるような振り返りである。授業の終盤だけでなく、単元の区切りの場面で次の学びにつなげる場合や、単元の最後で学習を総括する場合に用いられることもある。

〈参考文献〉「振り返り指導」入門 梶浦真著 教育報道出版社(2018)

## ③「振り返り」の構想

- 本時のねらいに沿って、目標とする生徒の姿(意識)を考え、学習課題(めあて)を設定する。
- 生徒の実態から、予想される反応を考え、本時のねらいを達成するための手立て(学び合いや学習形態など)を考える。
- 学習過程を工夫する。→昨年度の副主題(サブテーマ)です。
- 目標とする生徒の姿(意識)に近づけるためには、「どの場面で」「何について」「どのような視点で」振り返らせることが効果的なのかを考える。→今年度の副主題(サブテーマ)です。  
※時間配分を考えることも大切です。学習過程の工夫にも振り返る活動の充実にもつながります。  
(参)「振り返り」は「見通しと振り返り」というように、言葉としてセットでよく出てきます。